



オーストラリア直送レポート

Vol.3 2019.8.13 登校2日目

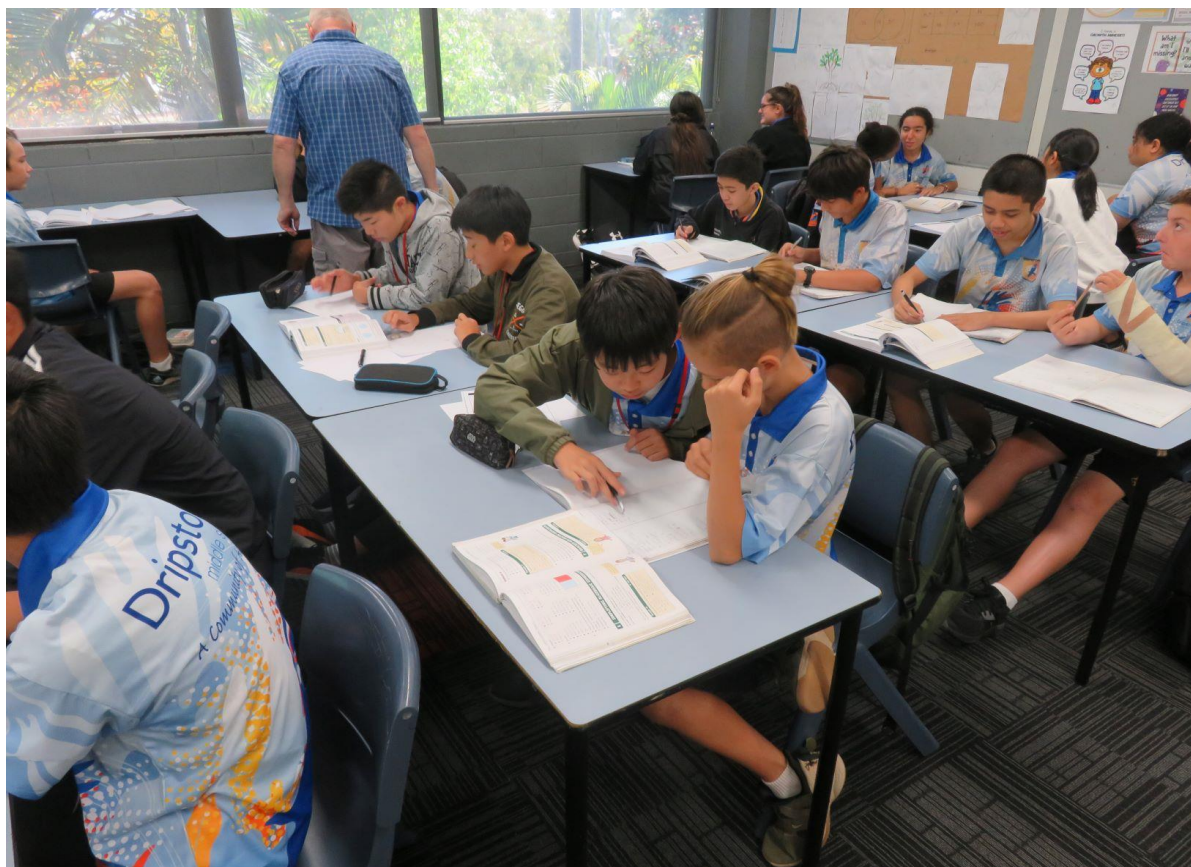
- ドリップストーン校グループ／教育委員会社会教育課 井口
吉備中学校 島本
- パーマストーン校グループ／教育委員会社会教育課 湯田・林

[ドリップストーン校グループ]

登校 2 日目の朝は、昨日に比べて肌寒く、登校してくる研修生たちも、一枚多く服を着ている人が多くいました。昨日よりも現地の生徒が、私たちの控室に来てくれ、研修生たちと英語で話をしていました。昨日は、恥ずかしそうにしていた研修生も、笑顔で会話を楽しんでいました。今日も2班に分かれて、現地の授業に参加します。今日の授業はダンスやギリシャ語など日本では珍しい授業と、数学や音楽、美術など日本にも馴染みのある授業がありました。ダンスでは先生の動きを覚えて、曲に合わせてダンスをするというもので、研修生たちは一生懸命に、先生の動きを観察しながら、曲に合わせてダンスをしていました。慣れていないことなので、恥ずかしそうに踊っている研修生が多かったですが、中には動きを覚えて現地の生徒に負けないくらい楽しく踊っている研修生がいたので、非常に頼もしいと感じました。現地研修では、今まで体験したことがないことを体験できるので、勇気をもって行動できるよう、より一層私たち引率者もサポートしていきたいと、改めて感じました。



次にギリシャ語の授業で、研修生と現地の生徒が混ざってグループになり、ギリシャ語の数字やあいさつを現地の生徒に教えてもらっていました。登校が2日目ということもあり、積極的にコミュニケーションをとる研修生が多かったです。授業が終わるころには、ギリシャ語であいさつができるようになっており、研修生たちの積極的に学ぼうとする姿勢に感心しました。また、数学の授業では、出されたプリントに取り組み、分からないところは現地の生徒に教えてもらいながら、問題を解いていました。普段は、現地の生徒に教えてもらうことがほとんどですが、今日は研修生が現地の生徒に計算の仕方を教えていました。現地の先生も、そのことが非常に嬉しそうな様子でした。音楽の授業では、現地の先生に教えてもらいながら、ドラムやピアノ、ベースを演奏したり、美術では教材に書かれた動物の絵を書き写し、鉛筆や絵の具を使って自分なりに色付けをしていました。その他にも、校庭に隠されたQRコードをタブレットで読み取って、問題を解いていく授業や、現地の生徒と交流を深めるために卓球をしたりと、様々な場面で交流を持つことができました。どの研修生も消極的にならずに、行動をとっていたと思います。また、昨日の授業で出会った現地の生徒と友達になって、お菓子を一緒に食べたり、ジュースをもらったりと、かけがえのない経験をしている研修生も多くなってきました。



明日は市長訪問や市内見学で、終日校外学習ですが、現地生徒も一緒に来てくれるので、その中で今日以上に交流を深めてほしいと思います。また、昼夜の寒暖差や慣れない環境での生活で、疲れが出てくる頃なので、研修生たちのかけがえのない経験を存分に楽しんでもらえるよう、明日からも研修生に寄り添いサポートしたいと思います。(井口)

登校 2 日目。私たちが学校に到着すると、先日もらったドリップストーン校のボロシャツを着て、笑顔で現地の生徒と話をしている研修生がたくさんいました。登校 2 日目で、ホストファミリー以外にも友達が出来ている生徒もいました。しっかりと現地の生徒と交流を深められている様子を見るのはとても微笑ましいものでした。

授業ではギリシャ語やダンスなど日本には無いオーストラリア特有の授業もありました。しかし、どんな授業でも必ず声をかけて一緒にやろう、こっちにおいてなど、現地の生徒が声をかけてくれ楽しく授業を受けられているようでした。教室を移動する際もハロー、こんにちは、ありがとうなど英語だけでなく知っている日本語でコミュニケーションを取ろうとしてくれる現地の生徒の優しさにも感動しました。

大休憩の時には、それぞれホストファミリーが持たせてくれたスナックやフルーツを美味しく食べていました。休み時間の度に多くの現地の生徒がやってきて、教室はいつもとても賑やかでした。授業や大休憩、売店でのお昼ご飯など日本には無い文化にも上手に対応し元気に 2 日目を終えることができました。(島本)

[パーマストーン校グループ]

オーストラリア研修 第6日目

日本を出発して6日目、パーマストーン校登校2日目です。今日も一日研修生たちは学校で過ごします。まず、1 時間目 2 時間目は研修生全員でアボリジニの文化、芸術についての授業です。アボリジニの芸術家の方が教えてくれます。スライドショーでアボリジニの芸術や風景などを紹介していきます。また、民族楽器であるディジュリドゥの演奏が始まります。低音のきいた独特な音色が教室中に響きわたります。吹き終わるとパーマストンの生徒や研修生に「吹いてみないか」と声を掛けます。一人の生徒が手を上げ、吹いてみます。すると低音の音が出ました。みんな驚いています。もう一人誰かないかと研修生を指名します。研修生も頑張ってみますが筒の中を空気が通る音しかしません。ディジュリドゥの筒の中は空洞で向こう側が見えています。やはり吹くのが難しい楽器のようです。



授業が終わり今日も 30 分の休憩 Recess Time です。多くのパーマストーン校の生徒がバスケットボールを楽しんでいます。コートで休憩している研修生を発見！やはり多くの生徒が周りに集まって話しかけています。研修生に声をかけると「だんだん英語が聞き取れるようになってきた」と話してくれます。この報告を書いている私自身、英語を聞き取るのに四苦八苦、七転八倒しているのに羨ましい限りです。

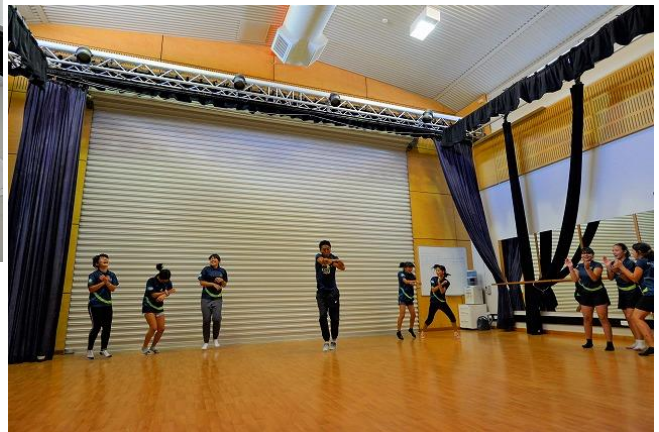


さあ、ここからは 2 人～4 人のグループで、読み聞かせ、生物、経済学、家庭科、昼食をはさみ美術、地理、ダンスなどの授業を受けます。





私たちスタッフは授業中の各教室を見回ります。見回るときは必ずパーマストンの先生か生徒が案内してくれます。それは教室棟が敷地内にくつもあり、目的の教室にたどり着けません。もう一つ重要なことがあり、教室棟に入るためには電子キーでドアのロックを解除しなければ入れません。電子キーになっていない教室は外からのドアノブがないため、ドアを開くことができません。中の人に声をかけ、開けてもらう必要があるためです。職員室など重要な部屋は、建物の中でも毎回鍵を使っています。広い学校の敷地には塀などはありませんが、その代わりに各ドアを閉め生徒の安全を守っているのだと感じました。



今日の授業が終わりました。明日はオーストラリア特有の動物についての学習、午後は学校から外に出て、パーマストン市の市庁舎などを訪れる予定です。(湯田)



PS校登校2日目の朝を迎えました。日本の台風情報が気になりニュースを見ながらPS校に向かう準備をしていましたが、明け方はかなり肌寒く感じホットコーヒーを飲みました。ダーウインの気候は日中とても乾燥しており、気づくと喉が渇いています。日向に出るとじりじりと日差しを感じます。しかし、朝晩の気温差が激しいので、研修生達の体調が気になりながらPS校に向かいました。PS校に到着すると、登校2日目で早くも仲良くなったPS校のバディーと談笑していました。研修生たちの元気な声や表情を見て体調不良者は無いと思いましたが、持ち物確認と合わせて聞いてみると、みんな一様に元気だと答えてくれました。また、PS校生徒にもらったアクセサリーを見せてくれる研修生もいました。

今日は、一限目及び二限目はアボリジニーアーティストの方を講師に招いて、オーストラリアの動物や文化などを教えていただきました。授業の中で、アボリジニーの伝統楽器を披露していただき聞いた事のない音色に研修生たちも聞き入っていました。また、その楽器にチャレンジした研修生もいて、その姿を見ていると、初日の昨日より、現地で交流や新しいことに挑戦する積極性が出てきたと思いました。三限目、四限目、五限目は、昨日に引き続き複数のグループに分かれてリーディング（物語を読み解く授業で日本で言う国語に近い教科）、化学、地学、経済学、生物、家庭の授業に参加しました。家庭の授業はパン作りの調理実習でしたが、ある研修生の男子生徒と話しているときに「なんとなく言っていることが分かってきた」と言っていました。オーストラリアでの現地研修が始まって5日目で早くも英語に順応していることに、研修生の適応能力の高さと、英語に囲まれた中で生きた語学研修をする意味を改めて感じました。ランチタイムでは、昨日に増して現地のPS校生とコミュニケーションを取りながら食事をしたり、食後にバスケットボール、アスレチック、写真を撮ったりと有意義な時間を過ごしていました。また、男子生徒の中には、「お昼に選んだホットドッグだけでは足りない」と言うので「明日から2つ頼めばいい」とアドバイスすると、満面の笑みで「そうする」と言っていました。早くもこちらは胃袋が海外サイズになってきているようです。午後からは、数学、経済、美術の授業にグループに分かれて参加しました。昨日、今日とPS校の授業に参加させていただく中で、2つの日本の学校との大きな違いを感じました。1つ目は、たいていの授業がデスクッション形式であり、例えば経済の授業では手元に20ドルあり、このお金を使い21ドルにする方法を考えるというものがありました。グループでアイデアを出し合

い良いところ、悪いところを話し合い具体的に考える授業でした。日本の中学校で、お金を稼ぐ方法を考える授業は中々ないので早い段階で、金融や経済の仕組みを教えていることに驚きました。2つ目は、授業を行う教室全てに電子黒板があり、先生がPCを使って授業をすることや生徒が各教室を移動するスタイルです。また、外から各教室に入るドアにはセキュリティーロックがついており、中から開けるかセキュリティーカードを持っている学校関係者以外入る事が出来ません。開放的に感じる学校の雰囲気ですが、生徒たちの安全面に対する対策を感じました。また、現地の生徒は教科書を持っておらず、電子黒板に写されるパワーポイントをメモしたり気づいた事をノートに書いていました。また、授業中に分からないことがあれば生徒たちは、PC、タブレット、スマートフォンなどのIT機器で調べていました。今後日本でも5Gのサービス開始が予定されていますが、そのなかでよりIT機器を使いこなす必要が高まります。日本の研修生徒、PS校の生徒は生まれた時からスマートフォンなどのIT機器が身近にあり、そういう環境の面では、PS校生と研修生達は同じだと思います。しかし、PS校生は日々の学校生活の中でそれらを活用、一方は限られた時間と場所での使用に止まります。このような事が、海外と日本でIT機器の活用の差が起こる要因の一つだと思います。研修生たちも日々のPS校と日本の違いについて色々と感じていると思います。その違いの中で日本の素晴らしさをオーストラリアのPS校の生徒に伝えて欲しいと思います。明日で、PS校で過ごす時間が半分になります。研修生たちとの会話の中で、もっと自分から話しかけるや、次はあの子と友達になろうという声が聞こえてきます。その意気込みで、どんどん積極的に異国の地で自分が見て、話した事を吸収してもらいたいと思います。(林)